

## 令和4年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

常に前向きな姿勢で未来に夢や希望をもち、

- 自他ともにかげがえのない存在であることを自覚し、感謝の心・思いやりの心を育み、礼儀をわきまえ「人」としての心を大切にする学校。
- 自主的に考え判断し、決断したことは積極的かつ誠実に実行する、その結果について責任をもち、失敗を恐れず努力し続ける生徒を育てる学校。
- 生涯を通じて健康・安全で活力ある生活を送るための基礎を培い、社会の構成員としてともに生きる心を養うべく社会奉仕の精神の涵養を育む学校。

## 2 中期的目標

## 1 確かな学力の育成と進路実現

(1) 学習指導要領を踏まえた創意工夫にもとづく教育活動の充実を図る。

- ア 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組む。
- イ 「観点別学習評価」による【計画⇒実践（指導）⇒評価⇒改善】により摂津高校の学びに応じた評価の『信頼性・妥当性』を高める。
- ウ 生涯にわたって探究を深める未来の創り手として「SDGs」を取り入れた探究活動を推進する。
- エ 「成年年齢 18 歳引き下げ」に伴い、生徒一人ひとりに社会で求められる資質・能力を育成する。

(2) キャリア教育の推進

- ア 3年間を見通した進路ガイダンス機能の充実を図る。
- イ 生徒の進路希望に応じたきめ細かな情報提供をおこなう。
- ウ 進路実現のための講習支援体制の充実（3年）を図る。
- エ 長期休業中等における質の高い集中講座を計画的・継続的に実施（1.2年）する。  
※難関私立大学合格者数（R01：57人/343人、R02：47人/345人、R03：93人/299人）前年度率を上回る。  
※学校教育自己診断「学校の進路指導は、進路選択・進路実現に役立っている」肯定的回答率（生徒：R01：81%、R02：88%、R03：83.4%）⇒80%以上を維持、（保護者：R01：82%、R02：80%、R03：75.2%）⇒80%以上を維持

(3) 新型コロナウイルス感染症との併存下、感染症対策を継続しながら ICT を活用した学びの保障

- ア 「非常時におけるオンラインを活用した学びの保障ガイドライン」をもとに学習支援クラウドサービス等の有効活用を図る。
- イ 臨時休業時に迅速な対応をするためのグループウェア各種ツールの活用率向上を図る。

## 2 豊かな心、たくましい人間性の涵養と安全安心な魅力ある学校づくり

(1) 規範意識の醸成を図り規律ある安全安心な教育環境を確保する。

- ア あいさつ、時間厳守、身だしなみ等規範意識の醸成を図る。
- イ 交通安全マナーの向上を図る。  
※遅刻総数の減少（R01:1504回、R02：873回、R03：725回）→前年度減

(2) 安全で安心な学校生活の推進

- ア 人権尊重の教育の推進により生命や自他ともに大切にする心を育て人権侵害を許さない学校体制を確立する。
- イ 個々の生徒に寄り添ったきめ細かな支援による教育相談体制の充実を図る。
- ウ 防災・防犯、新型コロナウイルス感染症に対する長期的な対応を含む取組みの推進を図る。

(3) 生徒の自主的活動の支援及び生徒の可能性を伸ばす教育の実践

- ア 「新しい生活様式」を取り入れた柔軟な学校行事・生徒会活動の充実を図る。
- イ 活発な部活動を通して人間力の向上をめざす。
- ウ 校内の環境整備及び設備等を充実することにより生徒の学習活動を活性化させる。

## 3 体育科設置校として、体育・スポーツ教育の推進をめざす。

(1) 体育科専門の授業を通して、トップアスリート・競技指導者等生涯を通してスポーツに関わる人材を育成する。

- ア 競技力の向上及び指導力の育成に積極的に取り組む。
- イ 体育の見方・考え方を働かせ、「する・見る・支える・知る」などのスポーツの多様な関わり方を自ら実践できる資質・能力を身に付ける。
- ウ スポーツ経験を生かし、生涯を通してスポーツの意義や価値を広めたり向上させたりすることができる人材を育成する。

(2) スポーツ拠点校として、地域スポーツの推進及び発展に寄与する。

- ア スポーツを通じて地域交流を積極的に行い地域貢献に努める。

## 4 学校力の向上

(1) 学校・家庭・地域とのより一層の信頼関係の構築

(2) 「学び続ける」教職員の組織的・継続的な育成

(3) 業務の工夫、効率化により超過勤務時間縮減と生徒と向き合う時間の拡充

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和4年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【生徒】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●「授業で自分の考えをまとめたり発表する機会がある」の肯定的回答 R2 R3 85.7% R4 91.0% 5ポイント以上上昇</li> <li>●「学校内外で規律を守り、モラルある行動をとっている」の肯定的回答 R2 99% R3 97.9% R4 98.5% と95%以上を維持している</li> <li>●「個の違いを認め合う人権を尊重する態度を身に付けるように取り組んでいる」の肯定的な回答 R3の項目であるが95%以上</li> <li>●「学校は、相談しやすい環境が整っている」の肯定的な回答 R2 74% R3 72.8% R4 68.2% 70%を下回った</li> <li>●「学校は、いじめを防止するために、いじめをさせない環境づくりに努めている」(R3までは「いじめについて困っていることがあれば真剣に対応してくれる」)の肯定的な回答 R2 86% R3 87.2% R4 81.3% 80%以上を維持している</li> <li>●(新規項目)「学校は、1人1台端末を効果的に活用している」の肯定的な回答 92.2%</li> </ul> <p>【保護者】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●「子どもは、学校内外で規律を守り、モラルある行動をとっている」の肯定的回答 R2 97% R3 94.7% R4 98.6% と95%以上を維持している</li> <li>●「子どもは、命の大切さや社会のルールを守るように日常意識して行動している」の肯定的な回答 R2 90% R3 95.0% R4 95.9% 引き続き95%以上を維持</li> <li>●「学校は、子どもが相談しやすい環境が整っている」の肯定的な回答 R2 71% R3 63.8% R4 67.9% 改善した</li> <li>●「学校は、いじめを防止するために、子どもにいじめをさせない環境づくりに努めている」(R3までは「いじめについて困っていることがあれば真剣に対応してくれる」)の肯定的な回答 R2 78% R3 73.0% R4 82.9% 低下した</li> <li>●(新規項目)「子どもは、1人1台端末を意欲的に使っていると思う」の肯定的な回答 75.3%</li> </ul> <p>【教員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●「学習形態や指導方法の工夫・改善を行っている」の肯定的な回答 R2 84% R3 98.3% R4 98.2% 維持している</li> <li>●「生徒が相談しやすい環境をつくるように努めている」の肯定的な回答 R2 94% R3 87.9% R4 89.5%</li> <li>●「生徒のいじめを防止するために、いじめをさせない環境づくりに努めている」(R3までは「いじめが起こった際の体制が整っており、迅速に対応することができている」)の肯定的な回答 R2 96% R3 98.3% R4 93.0% 90%以上を維持している。</li> <li>●(新規項目)「先生方は、1人1台端末を効果的に活用している」 87.5%</li> </ul> <p>【分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育自己診断の保護者の回答者数が昨年度に比べて、約半減している。今年度から保護者用アカウントが「settsuhs.com」から「e.oskaamanabi.jp」に移行したことが原因と考えられる。保護者への新しいアカウントの周知が課題である。合格者説明会の際に説明すること、ホームページのトップページの見やすいところでアカウントについて周知すること、さらに保護者懇談で来校の際に保護者用アカウントを周知することをを行う。</li> <li>・「授業で自分の考えをまとめたり発表する機会がある」(生徒)の肯定的な回答が昨年度より5ポイント以上。今年度取り組んできた授業改善の取り組みの成果が表れていると考えられる。また、本校独自で取り組んできた学習支援クラウドサービスを利用した1人1台端末の導入による教育効果と考えられる。</li> <li>・「学校の行事に積極的に取り組んでいる」(生徒)92.9%。新しい生活様式を取り入れながら、教員や生徒が創意工夫をして学校行事を作り上げた結果だと考えられる。</li> </ul>	<p><b>第1回(6月28日(火))</b></p> <p>○観点別学習評価について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・質問 1年生の授業を担当していない教員もいるので、段階的に進んでいく予定であると伝えた。</li> </ul> <p>○今年度の生徒の様子について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年主任より、生徒の様子について報告 1年生：成長が楽しみでどのようにサポートしていこうかと考えている。生徒は何事も一生懸命しようとしている。 2年生：学年目標として、授業と行事に取り組み、進路実現に向けての適切な科目選択がある。中だるみしないように気をつけたい。成長を期待している。 3年生：1年時はコロナにより6月スタートだった。2年時は修学旅行に行くことができた。今年度は体育祭を実施することができ、文化祭は全クラスが劇を予定。進学希望者が多く、まじめで元気。3年になって落ち着いた。</li> </ul> <p>○校内でのICT活用について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTについて教職員の得意・不得意はあるのか。リーダー的な教員はいるかの質問 リーダー的な教員は情報科教員を中心に4名いる。今後もICT環境の整備が必要であることを伝えた。</li> <li>・学習支援クラウドサービスは生徒の個別学習に生かされているのかについて質問 グループワークの活性化に使用している現状を説明した。</li> </ul> <p><b>第2回(11月9日(水))</b></p> <p>○定員割れの分析と対策について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定員割れの原因について質問 生徒そのものが減少していること、私学がひしめき合っていること、近隣通学30分圏内に体育施設が整っている学校が本校以外に2校あることが考えられる。近隣市町村に加え、寝屋川市、守口市、門真市、大東市にも中学校訪問など活発に行っている。また、中学校の部活動へも声をかけていることを説明した。</li> <li>・意見 入学した理由をリサーチし、中学校訪問や今後の広報活動に生かすために、在校生や卒業生に「なぜ摂津高校を選んだのか」を聞く機会を設けてはどうか。</li> </ul> <p>○「スクールミッション」について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・意見 委員から、「スクールミッションは、中教審の議論のもと作成することになった背景がある。以前から大阪府では学校経営計画として同様のものを作成していることから、校訓の、学校経営計画に沿ってスクールミッションを作成しているという説明を受けたことで納得した」</li> </ul> <p>○授業見学について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・意見 「公共」の授業は、グループ活動を行っていたが、もっと生徒に話をさせるとよいと思う。1つの班が発言している間に他の班は待っているだけだったので、工夫が必要との意見をいただいた。</li> </ul> <p>○授業改善委員会の取り組みについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導教諭からの報告 今年度1年生の授業を担当する教員の組織である「パイオニアグループ」を立ち上げ、このメンバーを中心に職員会議の時間を使って、観点別学習評価について、各教科の授業報告を行っている。今年度の取り組みをより深めていくために、教科を問わず活用できる方法の1つとして「ジグソー法」を取り上げ、英語科での研究授業を行った。</li> </ul> <p><b>第3回(2月1日)</b></p> <p>○令和4年度学校経営計画の学校評価(案)について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校からの説明 校長より、学校評価(案)を基に、結果とその分析について説明があった。また、首席より、教員、生徒のクラウドサービスの利活用について及び体育科の授業で「スポーツを『支える』『関わり続ける』」観点を取り入れ、東京オリンピック・パラリンピック時にスポーツ庁で勤務していた方を招き講演を行ったことなどの報告があった。</li> <li>・通学時の自転車事故に関して 自転車事故のタイミングはいつが多いか質問があった。登下校時、特に朝が多く、寒くなってきた最近は多いと回答した。委員から「学習支援クラウドサービス等のツールを使い、危険箇所を提示するなどしてはどうか」とご提案をいただいた。</li> <li>・委員より、今年度の学校評価について了承を得た。</li> </ul>

## ○授業アンケート結果について

## ・意見

総合の平均数値が 3.30 は低い値ではない。また 2 回めで総合の平均数値が 1 回めより 0.01 下がっている程度であれば、あまり気にしなくてよいのではないかと。

## ・質問と意見

統計のバイアスの話に関連して、生徒がアンケートに答える条件に差はないか、資料で示された平均値は、肯定的・否定的意見が中間値になく、上位と下位、二分化していることはないかという 2 点質問があった。いずれも「ない」と回答した。委員から今後もしっかりとした分析をお願いしたいとの意見をいただいた。

## ○学校教育自己診断結果について

## ・意見

保護者の項目で「家庭で防災について話し合うことがある」が低かったことについて。ある委員から、保護者と生徒の数値の乖離が大きいことから、家庭でしっかりと話してほしいという意見があった一方で、別の委員からは「家庭で話し合う」というところが、多感な高校生には難しいのかもしれないという意見もいただいた。

## ○令和 5 年度学校経営計画（案）について

## ・校長より説明

中期的目標で大きな変更はないが、項目の移動、文言の加筆修正を行っている。令和 5 年度の学校経営計画（案）の中期的目標については了承をいただいた。

## ○本年度の取組み内容及び自己評価について

## ・主な意見

- ・オンラインの活用に関して。コロナが落ち着き、保護者が直接学校に来て話ができているが、オンラインで懇談するなど、うまく活用したらよいのではないかと。
- ・生徒の相談項目の値が低いことに対する改善策について、たとえば、もっと相談できる場所や機会を作ってはどうか。
- ・図書室の活用について。ピブリオバトルなどやってみてはどうか。摂津市立図書館では、もうすぐ電子図書が使えるようになるので、そちらも活用してほしい。
- ・交通安全といった実際にはなかなか 0 にはならない目標も、続けていくことが大切だ。
- ・わが社の交通事故件数は長い時間をかけてようやく 0 を達成できた。そのためには、かなりやり方を変えた経緯があるので、そうした取組みで学校の何かに役立つことがあるかもしれない。

## ○長時間労働の削減について

## ・主な意見

- ・長時間労働削減の一番の対策は教員定数の増だと思う。
- ・長時間労働削減のためには、仕組みをかなり変えないといけない。医者の世界では内科での勤務希望が多く、医者になるための研修場所には制約があったが、それを少し改善するのに 20 年ほどかかっている。
- ・長時間労働の削減のために一斉退庁日などあるが、私学にはそのような制限がない。部活動が活発な摂津高校は、私学との違いについてどのように受け止めているのかと委員から質問があった。これに対して、正直厳しい状況だが、最近では、部活動の休みをもっと増やしてほしいという保護者がいる一方で、練習時間をもっと増やしてほしいという生徒もいるのが現状だと説明した。

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R3年度値]	自己評価
1 確かな学力の育成と進路実現	(1) 創意工夫にもとづく教育活動の充実	<p>ア 「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざす。</p> <p>・「観点別学習状況の評価」を進めるとともに、計画・実践（指導）・評価・改善の一連の活動を繰り返し教員間でより対話を大切に授業改善を進める。</p> <p>・指導教諭を中心に、定期的な研修を実施。</p>	<p>ア ・学校教育自己診断（生徒）「授業で自分の意見をまとめたり発表する機会」85%以上を維持する【85.7%】</p> <p>・学校教育自己診断（教職員）「各教科において教材の工夫や評価の在り方について話し合う機会がある」90%以上【82.8%】</p> <p>・定期的な研修の実施（各学期1回以上）</p>	<p>ア ・91.0% (◎) 次年度、さらに各教科で、発表の仕方ややり方を共有し、よりよい発表方法に工夫をしていく。</p> <p>・86.0% (△) 目標達成には至らなかったが、昨年度より3ポイント上昇している。</p> <p>・職員会議での研修 1学期4回、2学期2回 3学期1回 パッケージ研修 10月（英語科） 11月（数学科） 1年の授業担当者中心の研修 4、7、12月 （観点別学習評価について） 1月（理科） (◎)</p>
	(2) キャリア教育の推進	<p>ア ガイダンス、進路講演会を組織的・計画的に実施する。</p> <p>イ 進路指導部が中心となり、進学希望対象（3年）の集中講座の継続実施により最後まで挑戦する生徒を育成する。</p> <p>ウ 夏期集中講座（1・2年：10h/1日/複数日）の計画的実施により進学意識の向上及び家庭学習の習慣を身に付けさせる。</p>	<p>ア ガイダンス、進路講演会を1年生生徒・保護者向け各1回、2年生生徒向け3回・保護者向け2回、3年生生徒向け10回以上実施する。</p> <p>アイウ ・学校教育自己診断（生徒・保護者）「学校は進路選択・進路実現に役立っている」肯定的回答率生徒・保護者ともに80%以上【生徒83.4%、保護者75.2%】</p> <p>・難関私立大学合格者数を、前年度と同レベルに維持する。(93人/299人：延べ数)</p> <p>ウ 事後アンケート「生徒満足度」数値90%以上を維持する。【95%】</p>	<p>ア ・1年保護者 1回 生徒 2回 2年保護者 2回 生徒 5回 3年生 徒 10回 (○)</p> <p>アイウ ・生徒83.7% (○) 保護者80.0% (○)</p> <p>ガイダンス、進路講演会を組織的かつ計画的に実施した結果が学校教育自己診断の成果にも表れている。</p> <p>・(95人/303人：延べ数) (○)</p> <p>ウ 96.4% (○) ・次年度は、進学意識をめざした講座になるよう検討していく。</p>
		イ 学習支援クラウドサービスを中心にグループウェア各種ツールの活用率の向上をめざした計画的な研修会の実施	イ ・研修会実施回数（1・2学期2回、3学期1回以上）	イ ・授業改善委員会の研修を兼ねて全体研修を2回実施。情報科の授業公開を通じて活用事例共有の機会を設けた。また、ウェブ上の活用動画マニュアルを充実させた。(○)
			イ ・学校教育自己診断（生徒・教員）「授業、HR活動等の1人1台端末の利活用頻度」70%以上【新】	イ ・次年度当初に意見を募り、研修会の内容を検討する。
				イ ・生徒92.2% (◎) 教員87.5% (◎) 生徒教員ともに、1人1台端末の利活用が定着してきている。

## 府立摂津高等学校

	(3) 感染症対策を継続しながら ICT を活用した学びの保障	<p>ア 非常時のオンライン活用学びの保障ガイドライン」をもとに学習支援クラウドサービス等の有効活用を図る。</p> <p>イ 臨時休業時に迅速な対応をするためのグループウェア各種ツールの活用率向上を図る。</p>	<p>アイ ・教職員による活用方法を検討する。</p>	<p>アイ ・生徒と円滑に情報の共有と対応を行うために、クラウドサービスを活用し、主にメールを通して、生徒の自宅待機中に科目担当者から必ず1回以上連絡が入るような環境を整備した。授業動画の配信や授業のライブ中継を行う科目があった。(○)</p> <p>・次年度は、「グループウェア各種ツールの研修」とも連携させて ICT 活用研修会を設けていく。</p>
2 人間性の涵養と安全安心な学校づくり	(1) 規範意識の醸成。	<p>ア 昨年からの実施の遅刻登校生徒への「入室許可証」発行制度により速やかに状況を把握し指導できる体制を構築する。</p> <p>イ 交通安全指導の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>外部講師による「交通安全指導」の講演会開催及び年に2回の「交通安全指導週間」を設け、登校時における自転車マナー順守の注意喚起を行い自転車事故の被害者・加害者にならないよう計画的な指導を行う。</li> </ul>	<p>ア 遅刻数を前年度減にする。【725回】</p> <p>アイ 学校教育自己診断(生徒)「学校内外で規律を守り、モラルある行動をとっている」肯定的意見90%以上を維持する。【94.7%】</p> <p>イ ・登下校時の自転車による事故件数を0(ゼロ)にする。【新】</p> <p>・地域の学校・青少年指導員等で構成する「青少年対策連絡会」での意見【新】</p>	<p>ア 856回(△)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2学期はほぼ毎月前年度より増加した。1,3年生が多い。根気よく指導していく。</li> </ul> <p>アイ 98.5%(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校生活、社会生活のマナーモラルの向上への啓発を積極的に行なっていく。</li> </ul> <p>イ 13件(△)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自損事故が多い。スピードの出すぎや一時停止しないが挙げられる。交通マナーを、警察との連携により、交通安全指導を継続して行っていく。</li> </ul> <p>・連絡会において、「自転車マナーについては、とても良くなった。併せて、挨拶をしてくれる生徒が増えた。」とのご意見をいただいた。(○)</p>
	(2) 安全で安心な学校生活	<p>ア ・新たな「いじめ対策委員会」の定期的な開催。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒向け人権教育学習の充実。</li> </ul> <p>イ 情報リテラシーの育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>情報技術の習得とともに正しい判断、望ましい態度等の情報モラルを「情報」の授業のほか育成する。</li> </ul> <p>ウ 教職員対象の救急講習会全員参加</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教職員全員が心肺蘇生法を身に付けいつでも実践できるよう準備する。</li> </ul>	<p>ア 学校教育自己診断(生徒)「個の違いを認め合う人権を尊重する態度を身に付けるように取り組んでいる」95%以上を維持する。【95.5%】</p> <p>イ 授業後のアンケート及び生徒の感想【新】</p> <p>ウ 教職員参加100%【新】</p>	<p>ア 96.7%(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1年生では11月に性的マイノリティについて、2,3年生では、在日韓国・朝鮮人について、それぞれ外部講師を招き講演を行った。</li> <li>次年度は、外部講師を招き人権LHRを行い、より身近な問題であることを気づかせ意識させる。</li> </ul> <p>イ 授業後のアンケート</p> <p>肯定的評価 98.0%(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>項目「多様な価値観や受け止めを想定し、適切に考え、行動しようと思う」。</li> </ul> <p>ウ 100%(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>近隣専門学校及び摂津消防署の協力により、教職員全員が意欲的に参加した。</li> </ul>
	(3) 自主的活動の支援	<p>ア コロナ併存下で実施可能な学校行事等の更なる創意工夫を図る。</p> <p>イ 図書室の機能拡充</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「読書・学習・情報」を中心に教科指導・総合探究・調べ学習に活用できるように整備する。</li> </ul>	<p>ア 学校教育自己診断(生徒)「学校の行事に積極的に取り組んでいる」肯定的意見90%以上を維持する。【92.9%】</p> <p>イ ・図書室の利活用頻度30回以上【30回】</p>	<p>ア 95.6%(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教員や生徒がコロナ禍の中、創意工夫をして作り上げることができた。</li> </ul> <p>イ 35回(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今後さらに、総合探究・調べ学習により活用できるように工夫していく。</li> </ul>

## 府立摂津高等学校

<p>3 体育・スポーツ教育の推進</p>	<p>(1) 体育科専門の授業を通しての人材育成</p> <p>(2) スポーツ拠点校として地域スポーツの推進を図る。</p>	<p>ア ・「スーパーインストラクター招へい事業」の活用により、トップのアスリートやコーチによる講演等を計画的に実施し、生徒のモチベーションの向上につなげる。</p> <p>イ ・大学関係者による講義等を実施しスポーツの多様な関わり方を多方面から学ぶ機会をつくる。</p> <p>ア ・近隣学校等の体育的行事に企画・運営等を行い、指導力の育成を図る。 ・中学校の部活動を積極的に支援する。 ・スポーツ拠点校として、近隣中学校運動部を招き『SETTSU CUP』を開催し、本校体育科の教育活動の魅力の発信、地域スポーツの推進・発展に努める。</p>	<p>ア サッカー、ラグビー女子バレーボール、男女バスケットボール、硬式テニス、水泳、陸上の部活動の前年度以上の成績をめざす。</p> <p>イ スポーツビジネス等、大学の教授等による授業体験の実現【新】</p> <p>ア・体育的活動の企画から運営を行った【新】</p> <p>・部活動支援した中学校の部活動数 20 部【新】</p> <p>・『SETTSU CUP』の開催部活動 3運動部【新】</p>	<p>ア ・高円宮杯 JFAV-18 サッカーリーグ2部リーグ B ブロック優勝 1部リーグ昇格、インターハイ予選大阪ベスト 32 ・第 70 回大阪高等学校バスケットボール大会新人大会ベスト8 水泳近畿大会出場 (○)</p> <p>イ ・10月、1月の2度にわたり大阪成蹊大学教授を招き、スポーツビジネスについての授業を実施した。また、大阪経済大学准教授を招き、トレーニングにおける乳酸測定の意味について授業を実施した (○)</p> <p>ア ・小学生を対象としたスポーツ大会を本校にて実施し、本校体育科生徒が企画運営した。1月に近隣小学校6年生 82名が参加。(○)</p> <p>・部活動支援した部活動数延べ 107部 (◎)</p> <p>・9月に男女バスケットボール部によるクリニック、女子バレーボール部による『SETTSU CUP』戦を開催 (○)</p>
<p>4 学校力の向上</p>	<p>(1) 学校・地域中学校との連携</p> <p>(2) 教職員の組織的・継続的な育成を図る。</p> <p>(3) 業務の工夫、効率化</p>	<p>ア 中学校訪問/学校説明会の更なる改善を図る。 ・本校の魅力積極的に発信し丁寧な情報提供等を行うなど一層の充実を図る。</p> <p>ア 人権教育/教育相談 ・研修等を通して日常の生徒の言動にいち早く【気づき】ができるよう教職員のアンテナを常に高くして生徒対応ができるようにする。</p> <p>・教職員がそれぞれカウンセリングマインドをもって個に応じた適切な指導ができるよう外部指導者を招くなど生徒の支援体制の一層の充実を図る。</p> <p>(3) 長時間労働の削減。 ・全校一斉退庁日とノークラブデーの遵守・徹底 ・学年、教科等での教材等の共有化。</p>	<p>ア ・中学訪問延べ校数 140 校以上を維持【140校】</p> <p>ア・学校教育自己診断(教員)「人権尊重に関する様々な課題等、教職員が話し合う機会がある」肯定的意見 85%以上【81%】</p> <p>・学校教育自己診断(教員)「生徒が相談しやすい環境をつくるよう努めている」肯定的意見 85%以上を維持する【87.9%】</p> <p>・時間外在校時間の時間が長い教職員の延べ人数前年度より減【78名】</p>	<p>ア ・165校 (○) 学校の紹介ができたことに加え、在校生について情報共有を図ることができた。</p> <p>ア ・65.5% (△) 今年度は大学教授(子どもの人権)、SC(発達障がいについて)を招いて講義型の教職員研修を行った。次年度は参加型研修の企画を検討する。</p> <p>・89.5% (○) 「府立高校生の日常生活アンケート」の結果も活用し、引き続き、個に応じた適切な指導ができるよう生徒の把握を行う。</p> <p>・101名 (△) 部活動指導により、教員の活動時間が長いことが原因。</p>